



インバチェンス

交通インフォメーション

●車

◆札幌→喜茂別……………約90分
◆倶知安→喜茂別……………約30分

●バス(定期路線バス)

◆札幌→喜茂別
道南バス、じょうてつバス

【洞爺湖温泉行き(喜茂別下車)】

約110分

◆倶知安→喜茂別
道南バス

【伊達行き(喜茂別行き(喜茂別下車)】
約45分



エゾヤマザクラ

水の郷きもべつ



喜茂別町

【あ】

〈あげいもあげじゃが〉

ホコホコ揚げたてが、うーんたまりません！やつぱり中山峠に行ったらこれを食べなくっちゃ。喜茂別特産の男爵いもに特製のパウダーをからめて揚げる「あげいも」。

「あげじゃが」

は、昭和43年の販売以来、圧倒



的な人気を誇っています。ほのかな甘さがあとをひき、思いついたようにまた食べたくなる時の味です。ちなみに、「あげいも」・「あげじゃが」は同じように見えても違う味なので、食べ比べをしてみてもいい。

〈アスパラガス〉



誕生です。もともとアスパラガスは寒さに強く、喜茂別の気候風土に適していたことから生産量も伸

昭和4年、羊蹄山麓の火山灰地帯でアスパラガスの本格的な栽培が始まりました。日本の「アスパラガス栽培発祥の地」の

び、またクレードル興農が昭和7年からアスパラ缶詰の製造を開始したこともあって、アスパラガスは喜茂別町にはなくてはならない作物となりました。初夏を伝える味覚として全国へ発送されています。

〈アスパラガスの塔〉

中山峠にニョッキり生えた3本の金属製のアスパラガス。栽培発祥の地の誇りをもって、町のシンボルとしてこのモニュメントを作りました。平成8年度屋外広告物コンクール公共広告物部門では北海道知事



賞を受賞。キラキラ銀色に輝くアスパラガスの向こうには羊蹄山も望めることから、観光客の記念撮影の場としていつもピースサインと笑顔が飛び交っています。

〈インパチエンス〉

エゾヤマザクラ



平成9年3月25日にインパチエンスは町花として、エゾヤマザクラは町木に指定されました。インパチエンスはアフリカホウセンカの呼び名で、ピンク、白、紫紅

などの美しい花をつけます。ラテン語のimpatiens(我慢できない)が語源になったそうです。北海道が長い

冬の眠りから目覚めるころ、春を謳歌するようになり開花が始まるエゾヤマザクラは、町民公園でも見ることが出来ます。



〈エディブルフラワー〉

羊蹄山麓の町村はおいしくて、きれいな水に恵まれています。その水が食用花「エディブルフラワー」を鮮やかで安全性の高いものに。生産者の情熱が実って、町を代表する作物に成長しました。現在ベゴニア、マリーゴールド、バラなど約30種類を札幌市内の百貨店やホテルに出荷。おいしい料理をゴージャスに演出するエディブルフラワーは、羊蹄山の清らかな水で育っています。

【か】

〈喜茂別川河川公園〉

溪流大会も行われ、釣りファンにとってはなじみの深い場所です。水と親しむ空間として整備されているので、夏になると涼を求めてやってくる人も多いようです。

〈喜茂別町民公園〉

国道276号と230号が交差する相川地区にあります。6.4haの広大な敷地

内には温泉、フィールドアスレチック、野球場、パークゴルフ場、テニスコートなどの設備が整い、健康づくりに爽やかな汗を流す人の姿も。町木のエゾヤマザクラが美しいピンクの花をつける春は花見が楽しめます。スポーツにレクリエーションにと、いろいろ楽しめる方ができる町民のオアシスです。



【た】

毎年8月中旬に行われ、お盆で帰省した人たちが仲間入りします。企画から運営まで町民有志によって行われ、ユニークなイベントが目白押し。例えば「やまべのつかみどり」では、子供たちも必死になつてピチピチはねるヤマベを追いかけます。また、花火大会や仮装盆踊りなどもあって誰もが楽しめる内容に。夏を楽しむ目玉といえそうです。

【な】



喜茂別町の特産ホワイトアスパラガスを缶詰にしたアスパラ缶詰を昭和7年から製造開

【な】

中山峠森の美術館の館内・周辺に設置された5つの彫刻作品は、著名な彫刻家によって制作されています。館内だけが美術館ではなく、彫刻作品や中山峠の大自然も含めた全てが美術館であり、芸術なのです。

【な】



地場農産物を加工利用できないかとの発想から、平成9年に町内の女性有志20名で結成し活動をスタート。平成11年には「きらめき工房」を設置し、安全・安心健康にこだわった手づくり味噌「きらめきみそ」の販売を始めました。きらめきみそは、町内はもとより町外か

始。発祥の地、ゆりかごを意味するクレードルの名前は、優れた缶詰の代名詞として世界各国で愛されるようになりました。現在はホワイトアスパラガスの他、スイートコーンやかぼちゃ、じゃがいもの加工も行っています。ゆっくりと歴史を刻んできた赤レンガ工場には、先人たちの夢がたくさんつまっているようです。

【な】

幹川流路延長12.6km。羊蹄山、ニセコアンヌプリの山すそを流れ、蘭越町から日本海に注いでいます。溪流釣りのメッカとして、また清流日本一として有名で、清流にしか生息しないヤマベ、ニジマス、イトウを求めて訪れる釣りファンは全国各地から。釣り愛好家のグループ「竿好会」は資源を保護するため稚魚を年数回放流している

らの注文も多く、新たに町の特産品の一つに加わりました。

【な】

町民公園の入口にあり駐車場も完備。町民公園を訪れた方の休憩場所として利用されているほか、パークゴルフ場の受付も行っています。また、レストラン「きらめきみそ」では名物の「鴨鍋」を味わうことができ、やわらかくておいしい鴨肉にファンも多いようです。(夏季のみ営業)



【な】

【な】

第一湿原から第三湿原で構成される8.5haの湿原群で、喜茂別岳の東方標高850mに位置します。エゾリンドウやアイヌキノオサムシなど多く

他、河川愛護運動も積極的に行っており、喜茂別町も公共下水道の整備を進めるなど、流域7町村全体で尻別川の河川環境整備に力を入れています。

【な】

アイヌ語でピンネシリ(男山)とい、前方羊蹄とも呼ばれます。羊蹄山の南東に位置する標高1,107mの山で頂上まで1時間半位です。昭和45年8月より毎年山開きを兼ねた町民登山を実施しています。また、野鳥観察などでも親しまれており、頂上は平地で一周約500mの散策コースもあります。



の植物・昆虫が存在します。中山湿原は、日本では唯一のプランケット型湿原であるといわれています。

【な】

標高831m、札幌と洞爺道南方面を結ぶ国道230号のほぼ中央に位置し、年間380万人以上の観光客が訪れます。蝦夷富士こと羊蹄山を一望する絶好のビューポイントとしても知られ、遠くにはニセコ連峰のダイナミックな姿を望むことができます。物産館や駐車場、トイレなど各種施設も整う、一息ついてみたくなる旅の拠点です。中山峠の雄大な風景に、感動をおぼえる旅人も少なくないようです。



〈中山峠の釜めし〉



中山峠森の美術館で新名物「中山峠の釜めし」が誕生しました。地鶏の旨みたっぷりの茶飯に、喜茂別産の自然素材をふんだんに取り入れ、ひと釜ひと釜アツアツホクホクに炊き上げていきます。豪華な「中山峠四季の釜めし膳」、美術館の鑑賞券とセットになった、お得な「美術館セット」もあります。

〈中山峠物産館〉

喜茂別町の特産品がズラリと並んでいます。この他、1階の売店には北海道ならではの「おみやげが勢ぞろい。おなじみの「あげいも」コーナーはいつも賑



わっています。2階には旬の素材にこだわったメニューが自慢のレストランもあります。

〈中山峠森の美術館〉

しりべしミュージアムロード7番目の美術館としてオープン。19世紀末にヨーロッパ各地で花開いた芸術運動「アール・ヌーボー（新芸術の意）」様式的美術品を日本随一の居室展示で公開。また写真家嶋田忠氏のネイチャーアートも常時開設。著名な彫刻家による彫刻作品も設置されており、自然と芸術が融合した、やすらぎの空間となっています。ミュージアムシヨ



ップでは、オリジナルグッズなどを多く取り揃えており、ティールラウンジでは中山峠四季の釜めし膳も召し上がれます。

〔は〕

〈パークゴルフ〉

昭和58年に北海道喜茂別町で誕生したこのパークゴルフは、ちよっとしたテクニクが必要ですが、飽きるこ



とがないので一度やったらやめられません。喜茂別町でも町民公園内に大会コースとして使用される本格的な36ホールのパークゴルフコースを完備しており、どのコースもいつも賑わっています。子供からお年寄りまで年齢を問わず気軽に楽

しめるのが魅力のようです。

〈馬鈴薯〉

喜茂別町ではさまざまな農作物が作られています。中でも馬鈴薯は作付面積、収穫量ともダントツ。澱粉質をたっぷり含み、ホクホクおいしい男爵いも、きたあかりが、年間1万3千トン以上も生産されています。昼夜の温度差が大きく、保水性と通気性のバランスの良い肥沃な大地であることが、馬鈴薯をおいしくする絶対条件。この条件を見事クリアしているから喜茂別町の馬鈴薯は味がいいんです。

〈版画〉

平成10年春、全国的に有名な版画家 府川 誠氏が札幌市から移住し、旧羊蹄小学校校舎を利用し、「アトリエ「風舎）」として創作



活動をスタート。羊蹄山を中心とする北海道の雄大な風景をモチーフにした、メルヘンタッチなリトグラフを多く創作しています。

〈双子の羊蹄〉

美笹峠から喜茂別方向へ向かうと、御園、中里地区辺りから見える尻別岳(前方羊蹄)と羊蹄山(後方羊蹄山)がまるで双子のよう。大きさは全く違いますが、いつの頃からか双子と呼ばれるようになりまし



た。また、アイヌ語で尻別岳をピンネシリ(男山)、羊蹄山をマチネシリ(女山)ということから、夫婦山とも呼ばれます。山は見る方向によっても形がガラリと変えるので、あくまでもこれは御園、中里地区限定。蝦夷富士と称される羊蹄山に似ているなら、尻別岳もまんざらでもないのでは。

〈230の国道〉

札幌と洞爺湖方面を結ぶ国道230号と、苫小牧と倶知安・岩内方面を結ぶ国道276号が交差する喜茂別町。主要道路が重なりあい、文化と情報がこの町を通過して南へ北へ。国道沿いには特産品にこだわった店や、素材のおいしさを堪能できる店、頑固なまでに昔の作り方を守る店など、グルメ街道にふさわしいおいしい店が数々並んでいます。ドライブの休憩スポットもあって安全運転をしっかりとサポート。

〈ハジワーストロード〉

花のまちづくり運動の一環として、また国道276号の通行車両のスピードダウン、交通安全を願ってスタート。マリールールドやサルビアなどの花々が沿道1km以上にわたって咲く風景に、ドライバーの心もホッとなごむようです。植え込みから草取り、水やりまですべて町民のボランティアによって支えられ、「緑の環境づくり」で北海道知



など地域の情報発信の場として、札幌市と道南を結ぶ交通の拠点としての充実が期待されています。

〈メロン・トマト・花き〉

時代とともに変化する消費者のニーズを敏感にキャッチして、求められる農産物を確実に消費者の元へ。最近ではメロンやトマト、花きのハウス栽培が進み、年々収穫量を上げています。堆肥を利用した土づくりも行っており、安心して食べられる農産物を作ることに力を入れています。基幹産業である農業を効率的で安定的なものへ。喜茂別町は次世代に向けた農業のあり方を真剣に考えています。

事賞も受賞しました。

〈ふるつ温泉〉

平成8年8月にオープン。喜茂別町民公園内にあり、清掃協力金として一人200円程度で入浴できます。泉質はナトリウム・カルシウム塩化物泉で、神経痛や筋肉痛、冷え症、皮膚病、婦人病などさまざまな症状に効果大。病後の回復や健康増進にも期待でき、町内はもとより、町外からの



〈森のこま〉



平成7年度、全国の公共トイレの中からグッドトイレ10のひとつに選ばれた中山峠観光トイレの名称です。床面積277.73㎡の広々空間には、快適性と機能性を追及した工夫がほどこされ、爽やかさがポイント。例えば給水、冷・暖房、換気システムを完備し、車椅子ごと利用できる手すり付きブース、休憩ホールなども。まわりの環境に配慮し、排水再処理装置が設置されています。

利用も増えています。ポッカポカの温泉で、身も心もリラックスしてみてもいい。

【ま】

〈水の郷〉

尻別川や喜茂別川など大小いくつもの川が町内を流れています。特産品のホワイトアスパラガスの鮮度を保持するためには、清らかな水が不可欠で、採れたてのホワイトアスパラガスを羊蹄山や尻別岳の麓の湧水や地下水に浸す方法は、今も昔も変わりません。また長い年月をかけて浄化された湧水や地下水は町民の生活にも浸透し、毎日の暮らしにうるおいを与えています。

〈道の駅 望羊中山〉

平成5年4月22日に「道の駅」に登録されました。「道の駅 望羊中山」は、休憩・情報交流・地域との連携

【や】

〈羊蹄山〉

正式には「後方羊蹄(しりべし)山」といい、アイヌ語でマツカリヌプリ、またはマチネシリ(女山)と呼ばれます。北海道西南部随一の高さ(1,893m)を誇り、頂上まで4時間半位です。富士山を思わせる整った円錐形は、主に3回に及ぶ噴火で流れ出た溶岩によって形成されています。蝦夷富士の愛称で親しまれ、秀麗な姿をたたえる羊蹄山は自然の宝庫でもあり、野鳥130種類以上を確認。短い夏の間、高山植物が可憐な花を咲かせます。





- | | |
|------------------------|-------|
| 1.ネエダンナサン
あるいは未・和・動 | 阿部 典英 |
| 2.円と方形の夢 | 小田 襄 |
| 3.G L O R Y | 下田 治 |
| 4.山を立てる | 舟越 桂 |
| 5.風紋の標 | 渡辺 行夫 |



1 阿部 典英

ネエダンナサンあるいは未・和・動

阿部典英 (TENEI ABE)

1939 札幌市生まれ

1961 行動展新人賞

1973 北海道芸術新賞

1996 木の造形旭川大賞展優秀賞



2 小田 襄
円と方形の夢

- 小田 襄 (JO ODA)
 1936 東京生まれ
 1960 東京芸術大学彫刻科卒業 サロン・ド・プランタン賞
 新制作協会展新作家賞
 1962 東京芸術大学彫刻専攻科修了
 1977 中原悌二郎賞優秀賞
 1979 ヘンリー・ムーア大賞展優秀賞
 1988 ラベンナ国際彫刻ビエンナーレ (イタリヤ) 金メダル
 1997 第4回緑の彫刻賞



3 下田 治
GLORY

- 下田 治 (OSAMU SHIMODA)
 1924 満州生まれ
 1947 立教大学卒業
 1951 グラン・シュミエールアカデミー卒業 (パリ)
 1975 ロックフェラーセンター「彫刻展」出品
 1984 ミネアポリスにてグループ展
 1997 中原悌二郎賞
 2000 死去



4 舟越 桂
山を立てる

- 舟越 桂 (KATSURA FUNAKOSHI)
 1951 盛岡市生まれ
 1975 東京造形大学彫刻科卒業
 1977 東京芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻修了
 1995 中原悌二郎賞
 1997 平櫛田中賞



5 渡辺 行夫
風紋の標 (しるべ)

- 渡辺行夫 (IKUO WATANABE)
 1950 紋別市生まれ
 1973 金沢市立美術工芸大学彫刻科卒業
 1974 同研究科石彫教室修了
 1984 全道展奨励賞
 1986 全道展北海道新聞社賞
 1989 第6回ヘンリー・ムーア大賞展彫刻の森美術館賞
 1993 第6回本郷新賞



① 壮溪珠駒通所跡地

駒通所は、開拓のため北海道に渡ってくる人や、旅をする人の宿泊所として、さらに郵便の業務も取り扱っていた北海道独特のものであった。壮溪珠駒通所は、明治42年に開設され、明治45年長家国太郎に引き継がれ開拓に大きな役割を果たしたが、開拓の完了や鉄道の開通により昭和21年に制度自体が廃止された。壮溪珠駒通所は北海道の開拓を知る上で貴重な建物であるため、北海道開拓の村に移築され展示されている。

② 230号開拓 北門開拓像

東本願寺は、明治政府が開拓使による北海道の開拓を進めることになると、その開拓政策に協力し新道の開削を進め、移民を奨励するとともに布教活動を進める方針により、明治3年東本願寺新門現如上人(当時19歳)ら一行が伊達から札幌に至る103kmを1万8千両(現在の2億円)を投じ、わずか1年3ヶ月で本願寺街道(現在の国道230号)を完成させた。昭和42年東本願寺の関係者により中山峠頂上に建立され、峠を越えていく人々の無事を祈るように立っている。

③ 比羅夫神社

云われは、女帝斉明天皇の5年(659年)阿部比羅夫が蝦夷討伐の際、後方羊蹄(しりべし)を政所(役所)とし、郡領を置いて帰った。と『日本書紀』に記されている。幕末の探検家松浦武四郎が、日本書紀の記事内容から『後方羊蹄山は、政所の古址(こし)である』と唱え、明治28年河井篤叙が政所を確信、大正2年稲村道三郎に呼びかけ比羅夫神社を創祀したとされている。

④ 国鉄胆振線喜茂別駅跡

大正8年の倶知安から京極まで鉄道開通の後、胆振鉄道株式会社により昭和3年京極から喜茂別まで開通した。念願であった開通式は開村以来の祝賀行事が展開されたことある(当時の駅舎は現在のちびっ子広場付近)。昭和16年伊達までが開通し、昭和19年国鉄に買収され胆振線となった。その後、国道の整備により利用客が減少し、70年の歴史を刻んだ胆振線が昭和61年11月廃止された。

⑤ 開村記念碑

昭和13年開村二十周年を記念して、喜茂別期において馬の果たした役割は、はじめ、付近には四国出身が多く、弘法大師を信仰し昭和2年の秋に建立した。」とある。この庚申碑は正面上方に庚申(か)のえさる(像)を刻み、下方に三匹の猿を彫っており、病氣治療等の祈願を行っていた。

⑩ 喜茂別馬頭観音碑

開拓期において馬の果たした役割は、極めて大きいものがある。駒通では交通と輸送のため、農家にとっては農耕と運搬のために欠くことのできない存在であり財産であった。馬頭碑建立は、馬の霊の安らかなる事を願うと共に、馬が病気になることのないように願い、建立され、町内各所に祀られている。喜茂別神社境内の碑は、町内で最も古く明治44年に建立された。

⑪ 地神の碑

明治開拓期以来、民間信仰として故郷から伝承してきたものの一つに地神信仰があり、春と秋には祭りが行われ地域の様々な願いが寄せられている。留産の地神碑は珍しく他に類例がない。天照大神(あまてらすおみかみ)など五神の名の

茂別神社境内に開村記念碑が建立された。

碑文

大正6年4月 胆振国真狩村ヨリ
分村、同時ニ2級町村制試行
大正9年6月 同国徳舞警村字尾
路園ノ一部ヲ合併
昭和13年8月 経済更生特別助成
村ニ指定、同年9月全村字名改称、
並ニ地番整理ヲ実施セラレシ永久
記念トシテ

⑥ お大師山

喜茂別小学校の前方の丸い山が「お大師山」といわれ、苔むした88体の石仏が迎えてくれる。昭和の初期、森芳太郎が霊示を受け、信仰のためお堂を構えたのが始まりとされ、その後川口貞吉、杉本直治らの世話人による祈禱所が設立された。石仏は薬師如来、千手観音など14種でそれぞれに寄進者名が記され昭和5年建立とある。頂上には小さな太子堂(聖徳太子像安置)が祀られている。

⑦ 三宅伊勢松頌徳碑

明治元年香川県に生まれ、25歳のとき

石柱と、同じ台座に「木花咲耶姫(このはなさくやひめ)」を山神碑として祀り、馬頭碑を加えた三社が祀られている。大正5年に建立された。

⑫ 福島団体内植跡地

明治44年89戸400人が山梨団体に北接して4地区に分かれて入地したとされている。開墾地の条件が悪く開拓の苦労が容易でなく、その多くが数年のうちに転出したようである。入植後20年を経過した昭和5年記念碑を建立した。

⑬ 阿部嘉左衛門の墓

喜茂別最初の入植者。天保9年(1838年)宮城県に生まれ、明治4年伊達藩移住とあわせ渡道、同年東久世開拓使長官から伊達邦成が命を受け、阿部嘉左衛門ほか2名を喜茂別に入植させた(伊達市史)。明治8年フルボッケ(相川押切宅付近)で駒通所を再開、喜茂別神社境内の馬頭観音碑の建立など、本町の先覚指導者として定住した。明治45年8月74歳で没し、相川共同墓地上手中央に葬られている。

⑧ 南部団体内植跡地

「南部」の呼称は、青森県東部から、岩手県北部に至る通称で、この地域から北海道への移民集団を南部団体と呼んでいる。連年の凶作から北海道に再生の道を求め、明治35年岩手県本宮村を中心に鷹羽喜太郎を団長とする5戸34名が当時の上尻別(現福里)に集団移住した。碑は、昭和43年関係者により建立され、昭和56年現在地に移設された。

⑨ 庚申堂

喜茂別郷土研究会発行の「ヌプリ」1号には、「北海道にはめずらしい、庚申(こうしん)碑」として記述されている。建立の由来について、川口国雄談「私の母をは

